

「美郷町」20年の歩み 平成16年度～平成17年度

平成16年11月1日、旧千畑町、旧六郷町、旧仙南村が合併し、美郷町が誕生しました。「平成の大合併」で秋田県内のトップを切った美郷町は、令和6年11月1日で合併20周年を迎えます。美郷町のこれまでの道のりについて紹介します。

3庁舎で開庁式

分庁方式を採用した美郷町。平成16年11月1日、3つの分庁舎ではそれぞれ開庁式が行われ、銘板の除幕やテープカットにより美郷町の誕生を祝いました。



初代・美郷町長は松田知己氏

平成16年11月29日、美郷町役場六郷庁舎に初登庁する松田町長。



町のシンボルが決定

■町の木
「赤松」



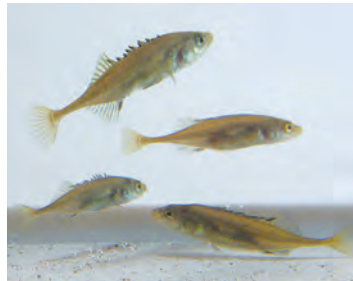
■町の花
「ラベンダー」



■町の鳥
「雁(かり)」



■町の魚
「ハリザッコ(トミヨ属雄物型)」



町のシンボルとなる町の木・花・鳥・魚が平成17年2月8日に制定され、町の木「赤松」、町の花「ラベンダー」、町の鳥「雁(かり)」、町の魚「ハリザッコ(トミヨ属雄物型)」に決まりました。

町民憲章を制定

平成17年8月29日には、美郷町民が生活を営む道しるべとなることにも、一体感の醸成を早期に図ろうとする「町民憲章」が制定されました。

合併記念式典を開催

平成17年2月13日、美郷町合併記念式典が総合体育館アスパル(現美郷中学校体育館)で開催され、来賓や関係者、町民など約1,000人が出席して美郷町の誕生を祝いました。



美郷町総合計画を策定 「美郷がいちばん、すきです美郷」

美郷町のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくため、その基本的な方針や将来像、目標を掲げ、その実現のための主要施策や施策事業を推進する「美郷町総合計画」が平成17年8月30日から開かれた町議会定例会で可決されました。

この総合計画は平成17年度を基準年度とし、目標年度を平成26年度とした10年間の計画となっています。

町民歌「光あふれて」とイメージソング「若いいぶき」を制定

町民歌の歌詞は、平成17年9月20日から10月31日まで全国から公募し、41の応募作品の中から町内有識者5人による町民歌歌詞選定委員会が選定し、補作や字句の修正を行い、町が決定しました。

イメージソングについては、当初は制作の予定はなかったものの、選定委員会による選定の過程で、最終的に町民歌の候補として残った2作品がいずれも秀作であったことから、イメージソングとして採用し、制作することとなりました。

「美郷町」20年の歩み 平成18年度～平成19年度

「じずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画 内閣府より「地域再生計画」認定書が授与

平成18年4月18日、地域振興を国が支援する「地域再生計画」に関する認定書授与式が首相官邸で行われ、小泉純一郎首相(当時)から松田町長に認定書が手渡されました。



11月1日を「町の日」に制定

平成18年9月1日、美郷町が誕生した11月1日を「町の日」と制定しました。これを記念して、11月3日に仙南公民館(現美郷町公民館)で「町の日」記念式典を開催しました。

式典では、本町出身で元東京大学総長の佐々木毅さんを講師に迎え、「子どもへの教育と大人の責任」私の体験的教育論」と題した記念講演が行われました。



秋田わか杉国体 多くの町民に支えられ開催

秋田県で46年ぶりとなる第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が平成19年9月29日に開幕し、11日間にわたって県内各地で熱戦が繰り広げられました。

美郷町では、自転車とバドミントンの2つの競技会を開催。各都道府県を代表するアスリートが集い、夢を目指して試合に臨む選手の姿は、私たちに大きな感動を与えました。

秋田県勢は、初天皇杯ならびに皇后杯を手にする大躍進を遂げました。

自転車競技(平成19年9月30日～10月4日)

◆トラックレース

秋田県勢は、ポイントレースで第2位、ケイリンで第3位、総合で第5位となりました。

◆ロードレース

秋田県勢は、成年男子が個人ロードレースで第3位となりました。



バドミントン競技(平成19年10月5日～8日)

バドミントン会場となった総合体育館リリオス。風光で試合に影響が出ないよう窓や出入口が締め切られた会場では、選手の気迫ある試合と観客の熱を帯びた声援によって、熱気に包まれました。



桂宮殿下もご観戦された今大会で、秋田県勢は成年男子が優勝、成年女子が準優勝を勝ち取り、男女総合成績で第1位に輝きました。

民泊 美郷の味と心でももてなし

国体に参加する選手や監督の宿泊を地元の一般家庭で受け入れる民泊。美郷町では仙南地区の協力家庭124世帯において、バドミントン競技の選手・監督約470人を民泊でももてなしました。

